

# 農業振興策など提言

## ビッグデータ活用 八戸で研究会報告

八戸市と地元大学などで組織する八戸市都市研究検討会(座長・小林眞市長)は10日、市庁で会合を開き、ビッグデータを利活用

した地域振興策の研究プロジェクトチームが最終報告を行った。周辺7町村との連携中核都市圏の形成に向けた▽農業振興▽観光振興▽シニア人材活用―の計3分野の振興策を提言した。今回の提言は、国が提供する地域経済分析システム(RESAS)の人口マップや観光マップなどを分析しながらまとめた。農業分野は圏域内にある道の駅ホームページの作成

や市中心街での農産物の展示即売会の開催、観光分野は温泉などを巡る広域観光バスの運行、人材活用分野はおおむね50歳以上の人材のデータベース化や情報発信などを盛り込んだ。

提言に対し、小林市長は「どれも実現性が高い内容であり、実現できるよう取り組む」と述べた。

同検討会は市と八戸工大、八戸学院大、八戸高専の4者で構成。課題ごとのプロジェクトチームが研究結果をまとめ、市へ提言を行っている。(水野大輔)



観光や農業振興などに関する最終報告が行われた検討会

10日、八戸市庁